# 東京文化資源会議 2018 年度総会資料

2018 年 7 月 2 日 ( 月 ) 午後 5 時 ～ 6 時

会資文東
議源化京
Tokyo Cultural Heritage Alliance

# 東京文化資源会議 2018 年度総会

## ▶ 議事次第

(1) 会長挨拶
(2) 2017 年度活動報告
(3) 2017 年度収支報告及び監査報告
(4) 2018 年度事業計画案及び予算案
(5) 質疑応答・意見交換

## ▶ 目次


①東京文化資源区構想 ( 半径 3 キロ圏地図 )..... 4
②活動マップ ..... 5
③活動実績（シンポジウム等）..... 6
④ 2017 年度プロジェクトチーム活動報告 ..... 8

④ -1. 地図ファブ.....8
④ -2. プロジェクトスクール@谷中.....10
④ -3. 地域文化資源デジタルアーカイブ.....11
④ -4. 湯島神田社寺会堂.....12
④ -5. 本郷のキオクの未来 .....13
④ -6. スポーツ文化資源.....16
④ -7. 上野スクエア構想.....17
④ -8. リノベーションまちづくり制度研究会.....18
④ -9. ナショナルハウス構想 .....19
④ -10. TokyoTramTown 構想.....20
④ -11. アキバプロジェクト企画チーム .....21

⑤ 東京文化資源区文化プログラム推進協議会規約 .... 22
⑥ 活動中のプロジェクトチーム等　一覧..... 23
⑦ -1 2017 年度 収支報告 ..... 24
⑦ -2 2017 年度 会計監査報告 ..... 25
⑧ 2018 年度事業計画案..... 26
⑨ 2018 年度収支計画案..... 28
⑩ -1 全国文化資源連携ビジョン策定委員名簿..... 29
⑩ -2 役員名簿..... 30
⑩ -3 賛助会員リスト ..... 31

資料①

# 東京文化資源区構想（v3.0）

2017 年 9 月

凡　例

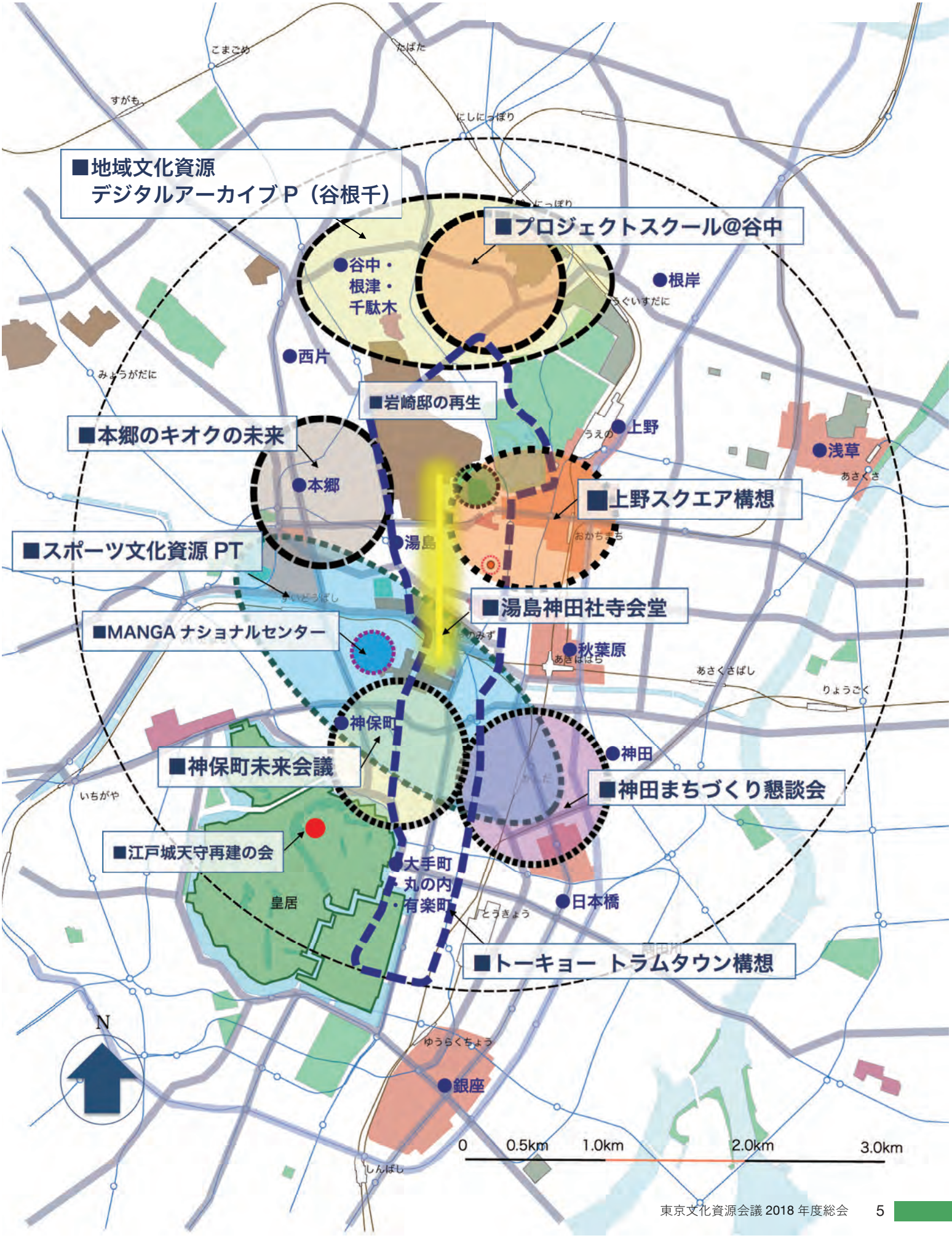
| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 大学等教育施設 | 墓地・墓苑 | 会館・宗教施設 | 居住等新整備エリア | バス等回遊動線 | 半径 3.0km 圏 |
| 公園・皇居等緑地 | 谷中寺社集積地 | 博物館・美術館等 | 幹線道路 | 低速の回遊動線 | 半径 3.0km の中心 |
| 上野動物園 | 神社 | 市街地整備地区等 | 地区内道路 | | |

0　0.5km　1.0km　1.5km　2.0km

資料②

# 東京文化資源会議　活動マップ（v4）

2018 年 5 月



# 東京文化資源会議　活動実績

2018 年 3 月 31 日現在

## 2014 年

- 第 1 回東京文化資源区構想策定調査委員会（6 月 6 日）
- 公開ラウンドテーブル no.1「東京文化資源区構想」（10 月 22 日）

## 2015 年

- 東京文化資源会議設立総会（2 月 23 日）、会議発足（4 月 1 日）
- 『東京文化資源区構想報告書』発行（5 月）
- 公開シンポジウム no.1「Tokyo 2020/2030：文化資源で東京が変わる」（5 月 21 日）
- 第 1 回役員会・賛助会員懇親会（6 月 18 日）
- 2015 年度第 1 回総会（6 月 29 日）
- 都市計画家協会ワークショップ「東京文化資源からのコミュニティ・デザイン」（8 月 20・21 日）：協力イベント
- 団体会員向けプログラム説明・意見交換会（9 月 28 日）
- 全国まちづくり会議学生セッション（東京文化資源区）（10 月 4 日）：関連企画
- 会員向けエクスカーション「CTN を周ってみる」（10 月 17 日・24 日）
- 谷中まちづくり公開セミナー no.1（11 月 9 日）～ no.5（2016 年 2 月 14 日）
- 第 1 回東京ビエンナーレ企画委員会（11 月 25 日）
- 第 1 回文化資源連携ビジョン策定委員会（12 月 3 日）
- 「オズマガジン Meets　2015」：協力企画（中村政人氏対談）（12 月 13 日）

## 2016 年

- 「三区文化資源地図協議会」発足（1 月 1 日）
- 文化資源地図ファブ PT 第 1 回会合（1 月 21 日）
- 公開シンポジウム no.2「2030 東京ビジョン：3 区長、大いに語る」（2 月 4 日）：朝日新聞社共催
- 国際連携チーム（ＩＬＴ）発足（3 月 9 日）
- まちの作戦会議＠谷中 P 成果発表会（3 月 13 日）
- 公開ラウンドテーブル no.2「オリンピック文化プログラム構想戦略ラウンドテーブル」（3 月 24 日）
- 『オリンピック文化プログラム』『東京文化資源区の歩き方』同時発行（3 月 25 日）
- フォーラム no.1「プロジェクトスクール（まちづくり系）フォーラム」（4 月 22 日）
- 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）プロジェクトチーム発足（5 月 25 日）
- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会発足（6 月 1 日）
- 湯島神田社寺会堂プロジェクト第 1 回検討会（6 月 8 日）
- 『第 2 回公開シンポジウム報告書』発行（6 月 14 日）
- 2016 年度第 1 回総会（6 月 23 日）
- 第 1 回神田まちづくり懇談会（6 月 27 日）
- 第 1 回文化プログラム推進協議会（7 月 6 日）
- フォーラム no.2「上野スクエア計画第 1 回フォーラム」（8 月 23 日）
- トーキョートラムタウン構想第 1 回勉強会（10 月 6 日）
- 地域文化資源デジタルアーカイブ（谷根千編）試作版公開（10 月 7 日）
- 関連企画：トークセッション「UP TOKYO エリアの社寺会堂」（10 月 19 日）
- フォーラム no.3「上野スクエア計画第 2 回フォーラム」（10 月 21 日）
- 公開シンポジウム no.3「上野スクエア構想：上野・湯島の魅力を世界に！」（12 月 5 日）
- スポーツ文化資源プロジェクト企画拡大会議（12 月 12 日）

### 2017 年

- 『湯島・神田・秋葉原めぐり』3 か国版で発行（4 月 1 日）
- 公開シンポジウム no.4「UP TOKYO の魅力：世界へ、世界から」（4 月 11 日）
- 神田祭ラボお披露目会 4/22、神田祭ライブ 5/13（3 区文化資源地図ファブ PT）
- ナショナルハウス構想プロジェクトチーム発足（5 月 30 日）
- 第 1 回上野スクエア構想検討委員会開催（5 月 31 日）
- 第 1 回広報委員会（5 月 31 日）
- 2017 年度第 1 回総会（6 月 30 日）
- 「上野ナイトパーク構想」官房長官宛て提案（7 月 4 日）
- 特別賛助会員懇親会（7 月 7 日）
- 第 1 回リノベまちづくり制度研究会開催（8 月 2 日）
- 公開ラウンドテーブル no.3「トーキョートラムタウン（TTT）構想」（9 月 7 日）
- フォーラム no.4「日本の新しい精神文化創造に向けて―湯島神田社寺会堂検討会」（10 月 17 日）
- 公開シンポジウム no.5「東京・水の記憶と湯島社寺会堂プロジェクト」（11 月 14 日）
- 公開シンポジウム no.6「地域の記憶と記録を今に活かす―地域文化資源デジタルアーカイブの役割―」（11 月 24 日）

### 2018 年

- 朝日信用金庫・民間都市開発機構による「谷根千街づくりファンド」創設（3 月 26 日）

## ＜出版物＞

### 書籍

- 『オリンピック文化プログラム』勉誠出版、2016 年
- 『東京文化資源区の歩き方』勉誠出版、2016 年

### 報告書

- 『東京文化資源区構想』2015 年
- 『2030 東京ビジョン　3 区長、大いに語る』2016 年
- 『湯島社寺会堂プロジェクト報告書』2017 年

### パンフレット

- 「東京文化資源会議：2030Tokyo を変える！」2016 年
- 「上野スクエア構想シンポジウム」2016 年
- 「湯島・神田・秋葉原めぐり（日英中 3 か国版）」2017 年
- 「シンポジウム：地域の記憶と記録を今に活かす」2017 年

### 定期刊行物

- 『TCha：東京文化資源会議ニューズレター』（季刊、2017 年 9 月～）

# 資料④-1 地図ファブ

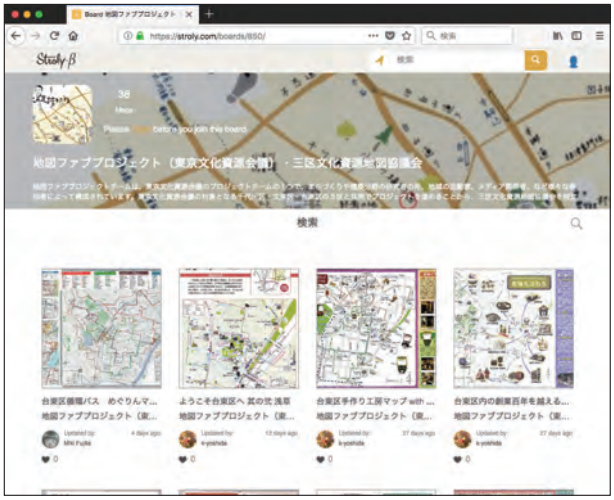
地図ファブは、地図そのものを文化資源として捉えて活動をおこなうプロジェクトチームであり、地域の公的な活動を支援したり公的に発行された地図を対象としたりすることから対象 3 区（千代田区・文京区・台東区）と協定を結び三区文化資源地図協議会として活動している。2017 年度にはアーカイブ事業と地図カタログ事業を進めた。

## アーカイブ事業

2016 年度に本協議会で検討した紙の地図をアーカイブする際のメタデータとともに地図のデジタルアーカイブを提供するためのアーカイブシステムの構築・公開をおこなった。アーカイブシステムは、一般的利用者の使用を前提とした Stroly- α 版と、全てのメタデータにアクセスできる Omeka-S 版を用意した。

### ■アーカイブシステム Stroly- α 版 https://stroly.com/boards/850/

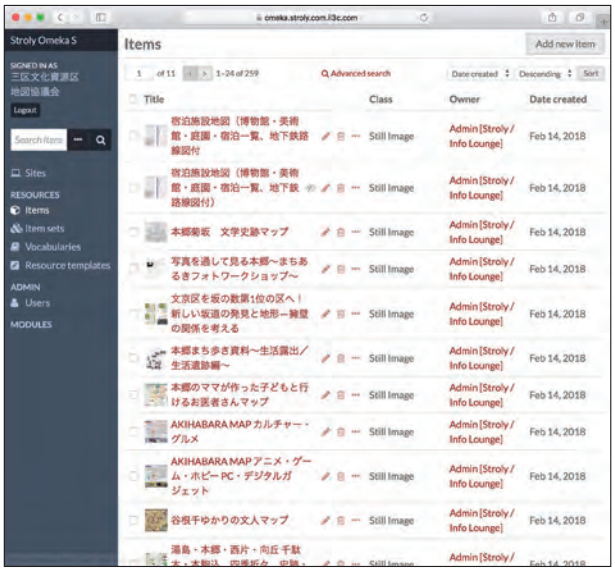
Stroly- α 版は、地図のサムネールの一覧機能などを備え、限定されたメタデータへアクセスできる一般利用者向けのアーカイブシステムで、トップページからアクセスすると現在地に関係のある地図がピックアップされる。また地図詳細表示では、地図名称、発行者、発行年月の他、覚書で確認したライセンスが表示される。

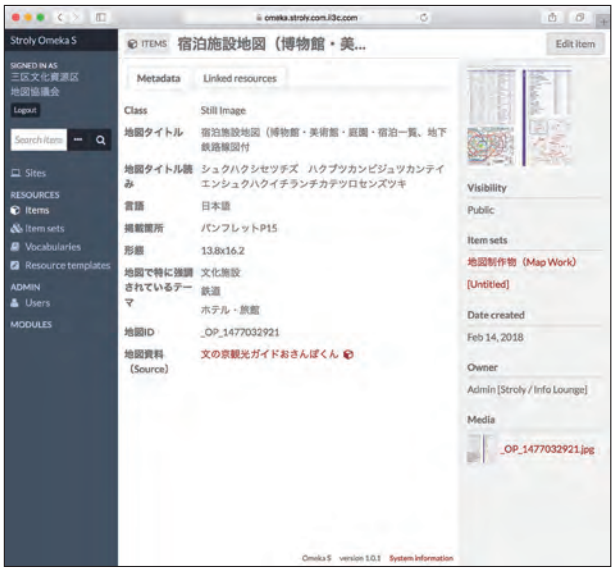


Stroly- α 版の画面：サムネイル表示（左）、地図の表示（右）

### ■アーカイブシステム Omeka-S 版（公開は調整中）

オンラインのデジタルコレクションのためのフリーでオープンソースのコンテンツ管理システムである Omeka を用いたアーカイブシステムは紙媒体である地図を正確にアーカイブできる。本協議会で検討された全てのメタデータ（地図についての情報と、地図が収められている冊子の情報）が提供され、Stroly- α と相互に連携することで使いやすさへの配慮も行っている。




Omeka-S 版：アーカイブしている地図の一覧（左）、地図の詳細（右）

## 地図カタログ事業

平成 29 年度神田祭に際して、複層の歴史地図に歴史コンテンツや食コンテンツを掲載した「神田祭ぶらり」、鳳輦や山車の位置がリアルタイムに配信され祭の様子が動画やツイートで報告される「神田祭ライブ」、神田祭に関係のある書籍にアクセスできる「神田祭本だな」を提供する「神田祭ラボ powered by 地図ファブ ～神田祭を文化資源としていかす～」を実践した。
また、平成 30 年度に帝都物語地図カタログを作成するようカタログの内容や作成過程で実施するトークセッションなどの検討をおこなった。

シンポジウム「神田祭ラボお披露目会」の様子

神田祭ぶらり：アプリ画面

神田祭ライブ：ホームページ画面

## 掲載記事など

・真鍋陸太郎・片桐由希子（2017）「地域文化資源としての地図の生み出すもの」日本造園学会 , ランドスケープ研究 81(1), pp. 34-27
・中村雄祐（2017）「祭礼における文化資源の活用　―「神田祭ぶらり」の開発を軸に―」可視化情報学会シンポジウム予稿
・朝日新聞 2017 年 4 月 21 日朝刊 29 ページ東京北部「神田祭、アプリで新体験『地図ファブ』と神社協力 古地図で現在地表示」
・HUFFPOST NEWS 2017 年 5 月 12 日「神田祭は時代を映す鏡だ。ライブ中継やアニメとコラボも『伝統があるからできる』」

## 活動記録

2017 年 4 月 4 日　神田祭ラボプレスリリース
2017 年 4 月 22 日　神田祭ラボお披露目会
2017 年 5 月 18 日　第 2 回協議会
2017 年 7 月 31 日　第 4 回協議会
2017 年 9 月 12 日　第 5 回協議会
2017 年 11 月 27 日 東京文化資源会議活動報告の夕べ
2018 年 2 月 8 日　第 7 回協議会
2017 年 4 月 20 日　第 1 回協議会
2017 年 5 月 13 日　神田祭ラボ実践（神田祭・神幸祭）
2017 年 6 月 27 日　第 3 回協議会
2017 年 9 月 11 日　角川文化振興財団訪問
2017 年 11 月 10 日 第 6 回協議会
2018 年 1 月 13 日　荒俣宏氏と面談
2018 年 3 月 28 日　第 8 回協議会

## 三区文化資源地図協議会および地図ファブメンバー

■三区文化資源地図協議会　千代田区・文京区・台東区・東京文化資源会議（地図ファブ）
■地図ファブ　◎座長　○プロジェクトマネージャー

荒井翔己（ゼンリン）　石坂渉（ゼンリン）　上野暢彦（ゼンリン）　内山雅之（matt.tokyo）
片桐由希子（首都大学東京）　菊地映輝（慶應義塾大学）　北岡タマ子（お茶の水女子大学）　小泉秀樹（東京大学）◎
小林一雄（メトロ設計）　鈴木親彦（人文学オープンデータ共同利用センター）　鈴木直文（一橋大学）
瀬戸完一（東京ドーム）　高野明彦（国立情報学研究所）　高橋徹（Stroly）　玉置泰紀（KADOKAWA）
中島直人（東京大学）　中村雄祐（東京大学）　松井芳之（けやき書店）　真鍋陸太郎（東京大学）○
渡部裕樹（日建設計総合研究所）

2018 年 4 月 6 日

担当：椎原晶子・片桐由希子

## 1．プロジェクト概要

谷中地区は NPO 組織や住民が、歴史文化を尊重したまちづくりに長年取り組んできた実績がある一方で、観光客の急激な増加と不燃化促進や相続に伴う近年の開発・更新、都市計画道路の見直しの動きに対し、路地空間や商店街、歴史的な建物、人の繋がりといった地域の生活文化資源を継承するための制度や事業が必要となっている。プロジェクトスクール@谷中は、このような状況に対し、調査・研究やプロジェクトを提案する「実践」、関連制度や建築・保全の技術、事業計画、地域住民との意見交換などの「講義」の 2 本だてのプログラムを実施するものである。

## 2．2017 年度の開催の実績

・開催時期は、6 月から 9 月の 3 ヶ月間、全 5 回の講義と実践編の最終発表会の日程を定め、参加者を募集した。参加費用について、前回 2015 年度はプロトタイプとして参加は無料であったが、本年度は経済面も含めたスクールとして運営手法について検証することを念頭に、講義編＋実践編、講義編の 2 つパターンで、社会人・学生別の参加費を設定した。

・参加者は講義編＋実践編 15 人（社会人 6 学生 8)、講義編のみ 11 人 ( 社会人のみ ) であった。

## 3．講義・実践の内容

### 1）講義

| | |
|---|---|
| 6/24 | ・都市デザインから見たまちづくりの進め方　明治大学 小林正美 |
| | ・エリア価値を上げる事業発展と建物再生　HAGIS ○ 宮崎晃吉 |
| 7/10 | ・歴史的資源を活かす経済的な仕組み　明治大学・(株）アークブレイン 田村誠邦 |
| | ・まちづくりを事業にする　株式会社まちあかり舎 水上和磨 |
| 7/24 | ・まちなか座談会「内から見た上野・谷中」　司会 I 片桐由希子　ゲスト I 谷中界隈に暮らす方々 |
| 8/7 | ・歴史的資源と防災を両立する制度と運用　工学院大学 後藤治 |
| | ・半公共空間を活用する仕組みづくり　文京建築会ユース／せんとうまち 栗生はるか |
| 9/11 | ・園芸文化とコミュニテイスペース　株式会社フォルク 三島由樹 |
| | ・宿泊事業を通した山谷の地域活性化 —多様性と観光と居住福祉—　一般社団法人結 (YUi) 義平真心 |
| 10/1 | ・まちづくり事業 提案最終発表会 |

### 2）実践

#### プロジェクト

まちなかの空間や情報に対し、まち・エリアの暮らしや仕事、コミュニティにる小さなプロジェクトを、すでに地域で活動をする主体のサポートを得ながら実践するものとした。、6/24 の第一回のプロジェクトスクールにおいて、「桜縁荘」「上野桜木アトリエ」「デジタルアーカイブ」の 3 つのテーマを発表し、参加者の希望により 3 つのチームを編成した。

#### 実施状況

プロジェクトごとに、現地調査や地域住民や観光者へのヒアリングなどを通じて、企画が検討、試行が行われた。最終発表においては、地域住民も参加し、実施にあたっての課題や今後の展開の可能性について意見交換を実施した。

## 4．次年度以降について

3 年間のプロジェクトを通じ、まちづくりにおけるプロジェクトスクールについて、一定の成果と課題が整理されたことから、スクールとしてのプロジェクトとしては一旦休止する。この成果については、2018 年度中に報告書を作成、発表の機会を設けることを予定している。

また、関連する継続のプロジェクトとしては、スクールの実施を通じて得られた人的ネットワークや調査・提案の成果を活用し、リノベーションプロジェクトなど連携しながら、現在進行中の谷中地域の地区計画に関連し、制度設計や計画立案に向けた調査・提案活動を実施することを検討している。

# 資料④-3 地域文化資源デジタルアーカイブ

地域文化資源デジタルアーカイブ・プロジェクトは、地域のコミュニティ資料、自治体関連資料、刊行物などをデジタル形式でアーカイブ化し共有することを目的としている。地域の情報を蓄積するデジタルアーカイブを社会情報基盤として発展させることで、地域の新たな公共性の創造につなげる。

## 地域文化資源デジタルアーカイブの構築

第 1 期プロジェクト（2015 年 12 月～ 2017 年 12 月）では、地域雑誌『谷中・根津・千駄木』の記事と原資料を対象としたデジタルアーカイブを構築した。同誌は、仰木ひろみ、森まゆみ、山崎範子の各氏による谷根千工房が 1984-2009 年にかけて刊行したものである。その制作にあたって作成･収集された多様な資料（インタビューのメモ、草稿、チラシ、ポスター、写真、引用文献等）は、谷根千工房の「記憶の蔵」に現存する。森まゆみ氏との協力のもと、2017 年 11 月までに、『谷中・根津・千駄木』全 94 号のうち 1-10 号の記事と原資料のデジタルアーカイブ化を完了した（http://lda.tcha.jp/）。

このデジタルアーカイブのコンテンツは、展示「はじまりの谷根千－地域雑誌『谷中･根津･千駄木』とローカルメディアのこれから－」(2017 年 11 月 8 日 -25 日、HAGISO) で一部を活用した。また、ウェブ上での活用のためにアプリケーションを開発している。2017 年 11 月 24 日には、シンポジウム「地域の記憶と記録を今に活かす－地域文化資源デジタルアーカイブの役割－」（東京大学ダイワユビキタス学術研究館ダイワハウス石橋信夫記念ホール）を、デジタルアーカイブ学会の後援とデジタルアーカイブ推進コンソーシアムの協力のもと開催し、本プロジェクトの中間報告を行なうとともに、地域のデジタルアーカイブの今後の可能性について討論を行なった。

## 第 2 期プロジェクトの開始

2018 年 1 月からの第 2 期プロジェクトでは、新たに DA-Lab(Digital Archive Laboratory) 計画を開始した。DA-Lab とは、地域のデジタルアーカイブを構築するための拠点を、区町村のコミュニティ施設に配置する構想である。この拠点は、住民・自治体・民間事業者など多様な活動主体が、地域の情報をアーカイブするために利用できるものとなる。構築されるデジタルアーカイブは、地域のさまざまな活動のために活用されるとともに、その活動の主体どうしのコミュニケーションを活性化することが期待される。2017 年度中は、プロジェクトの基本構想をまとめ、企画立案を行なった。

シンポジウム「地域の記憶と記録を今に活かす - 地域文化資源デジタルアーカイブの役割 -」（2017 年 11 月 24 日）

多様な宗教・学術施設を擁する駿河台から上野にかけて、大学や宗教等の関連施設が連携し、地域文化を見直し再生を促す試みとして検討会を発足した。第 1 期（2016.6 － 2017.9）では、施設間の相互理解と問題共有を深め、具体策の提案を行った。第 2 期（2017.10 － ）では新メンバーによる事例報告と意見交換、第 1 期の提案をもとに、協力大学の研究室による地域模型の作成、企業との共同研究などを実施している。

## ■検討会開催と議事内容

第 1 期 第 6 回（2017 年 6 月 6 日） 東京大学情報学環本館
委員の報告「絵画と文学にみる社寺会堂の表象」と意見交換

第 1 期 第 7 回（2017 年 7 月 24 日） 湯島聖堂斯文会館
報告書の構成の検討 / フォーラム・シンポジウムのプログラム策定 / 検討会継続の確認

第 2 期 第 1 回（2017 年 10 月 27 日） 東京大学情報学環本館
今期の体制・目標・年次スケジュール・会場の確認 / 新任委員の紹介 / 共同研究のキックオフ

第 2 期 第 2 回（2017 年 11 月 14 日） 神田明神別館
シンポジウムのまとめ / 共同研究の経過報告 / 東京文化資源会議プロジェクト報告会の案内

第 2 期 第 3 回（2018 年 3 月 8 日） 湯島聖堂斯文会館
模型作成と共同研究の経過報告 /「社寺会堂塾（仮称）」の設置目標と運営方針（案）の検討 / 委員の事例報告「伝える・いかす、とは」と意見交換

## ■主な関連イベント

2017 年 10 月 17 日 御茶ノ水ソラシティ（第 1 期検討会の報告会）
フォーラム「日本の新しい精神文化創造に向けて － 湯島神田社寺会堂検討会」

2017 年 11 月 14 日 神田明神 祭務所地下ホール
シンポジウム「東京・水の記憶と湯島神田社寺会堂プロジェクト」

## ■出版物

精神文化の新しい普遍性を求めて － 湯島神田社寺会堂検討会報告書 － 2017 年 10 月 17 日発行

本郷のキオクの未来プロジェクト PM 三文字

## ◆ 2017年度の活動経緯

2017.05.11　第13回ミーティング＋見学会@鳳明館森川別館
2017.05-　東京大学都市工学科学部4年 オムニバス演習 本郷と防災（廣井准教授）開催協力
2017.06.21　第14回ミーティング@東大
2017.07.13-　「歓迎！本郷旅館街」展@文京シビックセンター（企画・文京建築会ユース）への出展協力
2017.07.24　第15回ミーティング@東大
2017.08.23　第16回ミーティング@東大
2017.09.23　本郷のキオクの未来PJ主催「本郷のキオクを語り聞く会2017」@鳳明館本館
→老舗店主などをゲストスピーカーとして4名招き、お話を聞いた。来場者50名以上。

冊子「菊水湯にありがとう」発刊（500部）→国会図書館・区立図書館・小中学校等に配布

2017.09-　東京大学大学院演習「東京既成市街地の再構築 本郷のキオクから未来を構想する」への協力
2017.11.01　第17回ミーティング@東大（大学院演習と共同開催）
2017.11.28　「東京文化資源会議 活動報告の夕べ」@Arts Chiyoda 3331 出展

2017.12.01　第18回ミーティング@東大

2017.12.28　もりばあのいえ・宮前通り他建物記録

→売却・取り壊しが決まった地域コミュニティサロン「もりばあのいえ」（旧カヤシマベーカリー）とその近辺について、3Dスキャン・全天球カメラ撮影などにする記録活動を実施。

2018.02.10　「第3回文京映画祭」@文化シヤッター BXホール　出展

→特別上映枠にて菊水湯・鳳明館・朝陽館の動画を30分に凝縮した特別映像「本郷のキオクの未来」を上映し、文京区地元の観客等に活動を披露。

## ◆ プロジェクト体制

・座長：栗生はるか

・PM：細見直史・三文字昌也

・会計：東京大学大学院都市工学専攻小泉研究室（事務）

## ◆ プロジェクト活動方針

・本郷地域の文化資源を、

1)地域の記録や発信、保全提案における3Dスキャンや全天球撮影などのデジタル技術の活用（技術）

2)旅館や古書店など特徴的な地域の文化資源の実際の保全活動（ハードの点としての文化資源）

3)菊坂界隈を対象としたリサーチや都市デザイン提案（ハードの線としての文化資源）

4)書生や下宿といった文化的な側面の再発見（ソフトの面としての文化資源）

といった面から分析・整理を行い、複層的な「キオク」の保存とその活用を考える。

・プラットフォームとしてのプロジェクトを目指す。

→目的 (1)相互連携・(2)地域とつながる・(3)東京文化資源会議と連携した広報

かつて本郷には、下宿屋の流れを汲んだ旅館街、そして銭湯、さらには学生街を形成していた様々な商店など、いろんな形の「文化」が培われてきていました。しかし、現在の本郷の街を見てみると、そうした文化資源と呼べるものはどんどん姿を消しています。

私たちは、東京文化資源会議の協力のもと、文京建築会ユース・株式会社松下産業・東京大学（知能機械情報学専攻／都市工学専攻）・跡見学園女子大学・文京区・地域住民など、本郷にゆかりがあるメンバーが集まり、本郷の魅力発信につながる文化資源の保全・活用を目指して活動をしています。

［文京区本郷］

［菊水湯：2015年9月営業終了］

# 本郷のキオクの未来

［鳳明館本館］

## 記録活動 銭湯編

### ●菊水湯〔2015.09 営業終了〕

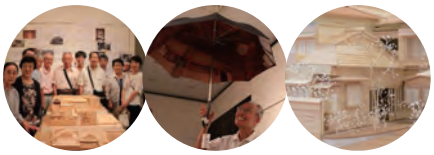
3D スキャン、ドローン撮影、全天球撮影、利用者コメント収集、測量などを実施

▶冊子「菊水湯にありがとう」（2017.09 発行）に成果がまとまる

## 記録活動 旅館編

### ●朝陽館〔2016.03 営業終了〕

3Dスキャン、全天球撮影、測量、撮影、模型作成など



### ●鳳明館本館・森川別館・台町別館

「歓迎！本郷旅館街」展（企画・文京建築会ユース）と連動した形でのインタビュー、撮影、屋内ビーコンを使用した音声ガイドの開発など

## 記録活動 その他

老舗店舗、学生寮・下宿屋
古書店・出版業など

▶月 1 回の会議で議論を深めています。

## イベント❶ キックオフWS

「本郷のキオクの未来を考える昼／語る夜」

2016.07.11@もりばあのいえ

## イベント❷ まちあるきWS

「本郷キオク散歩」同時開催「朝陽館展示」

2016.12.17@伊勢屋質店＋もりばあのいえ

## イベント❸ インタビュー+議論

「本郷のキオクを語り聞く会 2017」

2017.09.23@鳳明館本館大広間

［座長］栗生はるか（文京建築会ユース）
［プロジェクトマネージャー］ 細見直史（株式会社松下産業）・三文字昌也（東京大学大学院）
［お問い合わせ先］ hongo.kioku@gmail.com

「本郷のキオクの未来」の活動の最新状況は以下からご覧いただけます。

https://facebook.com/hongo.kioku

# 資料④-6 スポーツ文化資源

座長　鈴木 直文

## ＜活動概要＞

東京文化資源会議スポーツ文化資源 PT では、Playfulness for All をコンセプトとしてスポーツと遊びや 様々な文化活動との境界を乗り越えた新しい地域文化を創造することを目指している。2017 年度は文化資 源区内の「スポーツ文化資源」である神田小川町周辺のスポーツ店の集積を生かすことを目指し、神田スポーツ店協議会と連携して「神田スポーツ祭り」(10 月 28、29 日開催 ) の企画運営に参画することを活動の中心とした。具体的には、一橋大学鈴木直文ゼミナールによる「オルタナティブスポーツ」のプログラムを、神田スポーツ祭り小川広場会場のフットサル場にて「みんな de スポーツ」と銘打って提供した。スポーツ店街を健常者のスポーツでも障がい者のスポーツでもなく、障がいのあるなしの区別なく楽しめるスポー ツの場作りの拠点とすることを目指した。当日は天候に恵まれず、2 日間に渡って行う予定だった内容を半 日に圧縮し、10 月 28 日 ( 土 ) のみ開催した。活動の地域への影響を把握するため、社会インパクト評価のモデルを作成することも試みた。2018 年度は、引き続き神田スポーツ祭りなどを通じて地域との連携を強めるとともに、地域のスポーツ文化資源の掘り起こしのためのトークセッションを企画していく予定。

## ＜活動記録＞

| 開催日時 | | 会議 打合せ | 場所 | 概要 |
|---|---|---|---|---|
| 6 月 2 日 | 10:00 ～ | 神田スポーツ祭り打合せ | スターバックス | 事前打合せ |
| 6 月 20 日 | 17:00 ～ | 神田ｄｅ運動会① | カンダダ 3331 | スポーツ祭りの中で活動内容等 打合せ |
| 7 月 5 日 | 18:30 ～ | スポーツ文化 PT MTG | カンダダ 3331 | |
| 7 月 26 日 | 17:00 ～ | 神田ｄｅ運動会② | 印刷会館 | スポーツ祭りの中で活動内容等 打合せ |
| 8 月 1 日 | 18:30 ～ | スポーツ文化 PT MTG | カンダダ 3331 | |
| 8 月 7 日 | 16:30 ～ | 神田ｄｅ運動会③ | 印刷会館 | スポーツ祭りの中で活動内容等 打合せ |
| 8 月 11 日 | 10:00 ～ | 共助会 | えみふる | 障害者施設にて打合せ |
| 8 月 21 日 | 16:30 ～ | 神田ｄｅ運動会④ | カンダダ 3331 | ス ポーツ祭りの中で活動内容等 打合せ |
| 8 月 31 日 | 14:00 ～ | スポーツ文化 PT MTG | カンダダ 3331 | |
| 9 月 19 日 | 16:00 ～ | 神田ｄｅ運動会⑤ | 印刷会館 | スポーツ祭りの中で活動内容等 打合せ |
| 9 月 25 日 | 18:30 ～ | スポーツ文化 PT MTG | カンダダ 3331 | |
| 10 月 20 日 | 16:00 ～ | 神田ｄｅ運動会⑥ | 印刷会館 | スポーツ祭りの中で活動内容等 打合せ |
| 10 月 27 日 | 11:00 ～ | 神田スポーツ祭り<br>オープニングセレモニー | 小川広場 | 2017 神田スポーツ祭り |
| 10 月 28 日 | 11:00 ～ | 神田スポーツ祭り | 小川広場 | 2017 神田スポーツ祭り |
| 10 月 29 日 | 11:00 ～ | 神田スポーツ祭り | 小川広場 | 2017 神田スポーツ祭り |
| 11 月 27 日 | 17:00 ～ | 東京文化資源会議 PM 会議 | | |
| 3 月 16 日 | 11:30 ～ | スポーツ文化 PT 来期 MTG | GMC | 来期の活動内容企画 |

2017 年度プロジェクトチーム活動報告

# 資料④-7 上野スクエア構想

座長：
中島直人（東京大学都市デザイン研究室）

プロジェクトマネージャー：
小野道生（都市計画設計研究所）
永野真義（東京大学都市デザイン研究室）

## 上野スクエア構想委員会２０１７報告
## 開かれた「上野スクエア」をえがく

## 『上野スクエア構想』とその位置

### ○コンセプト：「開放系文化資源」で上野を南側から再発見する

上野スクエアの本質である「文化×街」の価値を表すキーワードとして"開放系文化資源"を掲げました。"開放系文化資源"とは、1カ所で完結せず街との接点を多く有し、誰もが参加可能で滞在の仕方に選択性がある文化資源のことであると定義し、これに近い特性を持つ文化資源をこの条件に沿って磨いていくことで、都市空間そのものを文化資源として楽しめるものにしたい、という考え方です。

上野の杜の文化施設群が「閉鎖系」の「施設」でならば、上野の街そのものは「開放系」の「場」という魅力を掘り起こすべきではないか。開放系文化資源が点在する上野の南側に焦点を当てることにしました。

### ○4つの開放系文化資源が囲むエリアに着目する

上野の重要な"開放系文化資源"である「不忍池」「湯島天満宮」「広小路・御徒町駅前」「アーツ千代田3331」という4つのスポットは、相互を回遊する動きがまだまだ少なく、かつこの4スポットに囲まれたエリアは、風俗街からの脱却を目指す池之端仲町通りや地元の方々が取り組む学問の道づくりなど、前向きな動きがある地区です。2017年度の構想委員会では、この四辺形のエリアを「上野スクエア」と見定め、千代田区・文京区・台東区の3区を横断したエリアづくりをしたうえで、上野の杜や本郷、秋葉原といった周辺の文化エリアを繋いでいくことを目指すことにしました。

▼湯島天満宮

▼不忍池

▼吹貫横丁

▼アーツ千代田3331

▼パンダ広場・広小路

▼学問の道

## 2017年度活動記録

**5/31 第1回委員会**

**文化資源の基礎資料収集**

そもそもどのような文化資源があるのか。文献や古地図からの包括的な分析と調査報告を元に議論。

▶

**8/3 第2回委員会**

**不忍池がもつ中心性の再認識**

提案の骨格を議論。不忍池の重要性を強調して枠組みを議論した。また地元協議会でも構想を発表。

▶

**11/8 第3回委員会**

**不忍池起点の公共空間戦略**

提案の肉付けを議論。不忍池調査結果をヒントに、パブリックスペースのリノベーション案を検討。

▶

**2/9 第4回委員会**

**上野スクエアのエリアを固める**

1 年間の調査や議論を再構築し、不忍池と上野の街を絡めて『上野スクエア』エリアを定めた。

▶

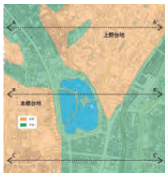
**年度末 報告書の作成**

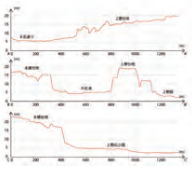
**報告書とりまとめ**

東京大学都市デザイン研究室チームを中心に報告書を作成し委員で確認した。現在、最終校正中。

### ○基層分析

不忍池を中心とした上野周辺地域について、俯瞰的な目で分析を行なった。上野に関する資料・文献・論文・既往研究・調査などを収集し、どのような文化資源があるのか、地形・歴史・文化・街路形成など様々な視点から分析を試みた。



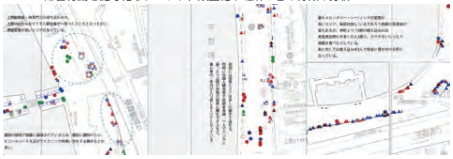


### ○アクティビティ調査

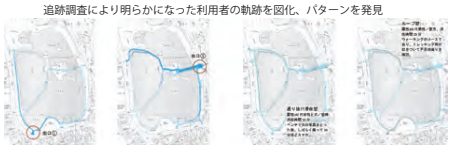
上野スクエアの中でも特に重要な位置を占める不忍池で、前提となる定量的な調査として、不忍池の使われ方、および池での人々の振る舞いを可視化。❶出入り口交通量調査❷滞留行動調査❸追跡調査の三つの調査を、平日・休日で行い、不忍池におけるアクティビティについて、可視化・類型化を行った。

滞留行動調査は全天球カメラを駆使して実施

滞留行動を記号化しプロット、類型化や場所ごとの特徴の分析



追跡調査により明らかになった利用者の軌跡を図化、パターンを発見



### ○空間提案

プロジェクト化を目指し、調査や分析からポテンシャル豊富な場所を選び、空間リノベーション提案を行なった。不忍池そのものが最大の文化資源であるという姿勢のもと、その周囲性・街との接続性を高める提案を行った。広小路付近でも道路の余剰空間を使った「場」づくりの提案を行った。

## 2018年度活動方針

2017年度上野スクエア構想の枠組みを構築⇒まずはシンポジウム等で発表したい。
→2018年度の目標は、どのように具体的なアクションを起こし、上野スクエアの文化資源を生かしたまちづくりに関わっていくか？／長期的ビジョンを見据えた具体的なアクションへ ▶

- 地域と協働した仲町通りでの調査やアクション（空き店舗を使った実験など）
- 地元まちづくり協議会との連携をはじめ、上野の南側エリアの魅力をより深く調査。
- 関係団体へ不忍池リノベーションに関する働きかけ　…などを模索中。

# 資料④-8 リノベーションまちづくり制度研究会

2018 年 4 月 3 日

座長　田村誠邦

## 1．活動目標

① 地域金融機関と連携したまちづくりファンド活用による具体的 PJ の実現（短期目標）

② 歴史的資源保存に絡めた法制度、容積移転制度に関わる政策提言とその実現（長期目標）

## 2．研究会開催期日と議事内容

**■第 1 回研究会（2017 年 8 月 2 日）**

**意見交換**

・容積率移転制度について

・保全に関する法令・条例について

・地域金融機関と連携したまちづくりファンドについて

**■第 2 回研究会（2017 年 10 月 30 日）**

**事例報告と意見交換**

・容積移転と環境貢献評価 奥森氏（日建設計）

・谷中の暮らしと歴史を生かすまちづくり 椎原氏（たいとう歴史都市研究会）

・まちあかり舎の取り組み 水上氏（まちあかり舎）

**■第 3 回研究会）（2017 年 12 月 12 日）**

**事例報告と意見交換**

・法制度について 佐々木氏（前・国土交通省国土交通政策研究所長）

・歴史的建造物等の保存、利活用とファイナンス 飯塚氏（quod, LLC）

・歴史的建造物再生とファイナンス 大久保氏（一般社団法人ノオト）

**■第 4 回研究会（2018 年 2 月 19 日）**

**事例報告と意見交換**

・保全と開発のリンケージについて 中山氏（ＵＲ都市機構）

・名古屋市における都市再生特別築の地区外貢献の実態について
佐々木氏（前・国土交通省国土交通政策研究所長）

・芝浦一丁目計画、ふなばし森のシティ 小野氏（野村不動産）

・まちづくりファンドの設立状況 竹尾氏（朝日信金）

## 3．活動のまとめ

活動目標①については、別途、本研究会のメンバーである朝日信金様の主導のもと、民間都市開発機構のご協力も得て、「谷根千街づくりファンド」が設立され、今後、谷中・根津地区を中心に、具体的なプロジェクトへの展開が期待される。

活動目標②については、４回の研究会での事例報告と意見交換により、制度の大枠が見えてきた。来年度内での具体的な政策提言を目指したい。

ナショナルハウスプロジェクトチーム
道明葵一郎

## 2020 東京オリンピックに向けて新しいナショナル・ハウスのあり方についての提案

ナショナルハウスプロジェクトチームは 2017 年 4 月の発足以来、文化資源区内でのナショナルハウスの展開を実現するための活動を重ねてまいりました。

### ■「ナショナル・ハウス」とは

「ナショナル・ハウス」（または「ホスピタリティ・ハウス」）とは、各国政府および各国オリンピック委員会が五輪大会の開催都市において市内の文化センターやスポーツクラブ、または歴史的建造物等を借り上げて、自国の文化体験の機会を市民や観光客に提供するというものです。最近の五輪大会においては恒例となっている仕組みで、リオ 2016 においては 30 か国以上が「ホスピタリティ・ハウス」を開設しました。いくつかの国の「ホスピタリティ・ハウス」は、エントリーを選手のみに限定したり、ゲストのみを招待したりしていましたが、大半のものは一般に公開されました 。

### ■ご提案：五輪後のレガシーとなる「ナショナル・ハウス」の新しい形を東京で！

五輪大会の開催期間中は各国の文化等を紹介する施設として人気の高いナショナル・ハウスですが、大会後には基本的に閉鎖されてしまいます。しかし、それはとても“もったいない”ことです。東京文化資源会議では、大会閉幕後も各国の文化・観光の情報発信拠点等として持続可能な仕組みを各国の NOC や文化機関とご一緒に検討していきたいと考えています。

### ■「東京文化資源区」内への立地の意義

「東京文化資源区」だからこそ、文化資源・知識資源を活用してレガシーとクリエイティビティ両面を提示できるナショナル・ハウスにとって極めて重要な場所として、東京から全国に、さらに文化資源を備える海外の都市にも波及する世界的なモデルとなり得ると考えています。
プロジェクトチームでは、神田、上野・湯島、谷中根津千駄木、本郷・西片の 4 エリアに文化資源区を区分けし、それぞれの魅力を地域担当者の紹介によって HP 上で発信しました。またエリア毎に、PR 型のナショナルハウス、ゲストハウス型のナショナルハウス等、どのようなタイプのハウスが設置可能かを検証し、地域の特性にマッチしたハウスの提案を行える体制を整えております。

# TokyoTramTown 構想

## TokyoTramTownプロジェクト 2017年度 活動報告

企画・運営メンバー：
中島伸（東京都市大学）[ 座長]
今井瑛里子（NEC）
島裕（日本経済研究所）
夏秋馬寧（博報堂）
田中元子（株グランドレベル）
谷口晋平（博報堂）
玉置泰紀（KADOKAWA）
橋本健史（４０３architecture）
平賀直武(デンソー)
藤山龍太郎（国立国会図書館）
柳与志夫（東京文化資源会議事務局長）
吉見俊哉（東京大学）
鷲尾和彦（博報堂）
渡部裕樹( 日建設計総合研究所)

### ■ プロジェクト概要

東京文化資源区域内を走る「スローな交通手段とシステム」の導入検討プロジェクトです。新しいモビリティのデザイン、ではなく、新しい都市生活像・都市文化のデザインを目的としています。

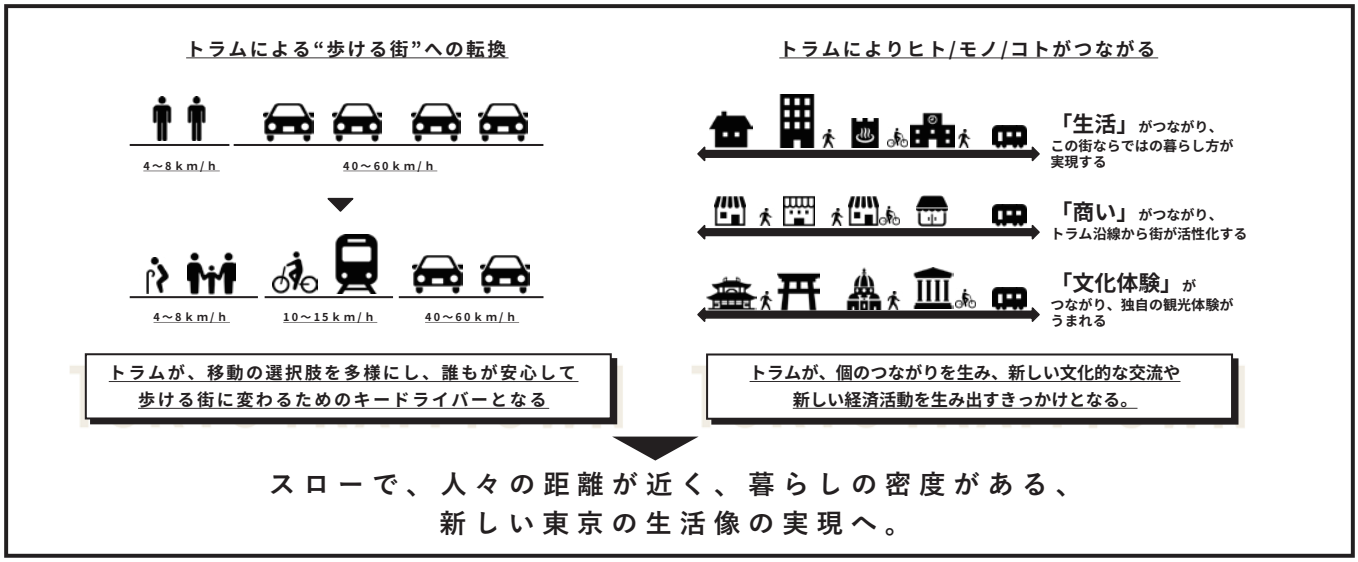
スローモビリティの導入を“手段”としたときに、ポストオリンピックの日本において、「どのような新しく豊かな都市生活像を描き出せるか」を課題とおき、産官民学の壁を越えた議論の場づくりを進めています。

### ■ コンセプト

「早く、高く、遠く」から、「ゆっくり、低く、近く」へ。

前回のオリンピックで上げた都市の“速度” をもう一度落とすことで、これからの時代に合った都市環境への転換を促し、新しい生活スタイルを支える仕組みづくりを模索します。

これまでの「速さ・量・効率性」とは異なる価値軸による、これからの東京・日本にとってふさわしい 新しい豊かさの実現に寄与することを目指しています。




### ■ これまでの活動（PHASE１）

#### ● 勉強会＆ワークショップの開催 → TTT構想案の骨子の策定

専門家など講師を招いてた勉強会やワークショップを全３回にわたり実施。産官民学のの壁を越えて、多様なバックグラウンドをもったメンバーが集まり、TTT構想の可能性と、実現に向けた課題について議論を行いました。これらの議論の成果を、TTT構想の骨子としてまとめあげました。

#### ● ラウンドテーブル(公開討議)の実施

本テーマに関わる有識者・ 関係者をお招きし、これまでの勉強会で議論を進めてきたTTT構想の概略を発表。これを議論の起点として、スローモビリティーを基軸とした東京都心の生活、仕事、交通、文化面での新たな価値創造について多角的に論じ、2030年を目途とするトラム再生の可能性を探るラウンドテーブルを実施いたしました。

2017年9月28日(木)＠ワテラスコモンホール

<討論者>敬称略
上山信一(慶應義塾大学教授/東京都顧問)
小林成基（自転車活用推進研究会理事長）
島裕(日本経済研究所技術事業化支援センター長)
玉置泰紀(KADOKAWA2021年室エグゼクティブプロデューサー)
高山肇(高山書店社長)
中島伸(東京都市大学講師)
中島直人(東京大学准教授):司会
中村英夫(日本大学教授)
中村文彦(横浜国立大学理事・副学長)
平賀直武(デンソーソーシャルデザイン課担当係長)
山中俊治(東京大学教授)
渡部裕樹(日建設計総合研究所研究員)

### ■ 今後の活動（PHASE２）

PHASE1の活動で作成した構想の骨子を基に議論を進め、グランドビジョンの策定、より具体的なプランへの落とし込みを進めています。そのために必要なケーススタディ、各種リサーチ、フィールドワークなどを実施していきます。また、並行して地域との連携・協働を進め、構想への賛同者を増やしていく活動も推進します。

# 資料④-11 アキバプロジェクト企画チーム

## ＜プロジェクト概要＞

秋葉原は、マンガ、アニメ、ゲームといったポップカルチャー関連の文化資源が多く集まる「オタクの街」として国内外に知られています。しかし、現在の秋葉原は、既に定着したこのイメージに引きずられてしまい、次の変化を迎えることが難しくなっています。そこでアキバプロジェクト企画チームでは、江戸時代以降の歴史や周辺の街との関わりという新たな視点から秋葉原を捉え直し、街のさらなる進化と活性化を目指し活動を行っています。

## ＜活動状況＞

・　定例会議の開催

秋葉原に関係するステークホルダーや有識者を招き、月に 1 回のペースで、秋葉原を多角的に検討し議論を行う会議を開催しています。これまでの開催日とテーマは下記の通りです。

| 開催日 | テーマ |
|---|---|
| 第 1 回（2017 年 11 月 8 日） | プロジェクトの目的 |
| 第 2 回（2017 年 12 月 14 日） | Greater Akiba（秋葉原を中心とする広域エリア） |
| 第 3 回（2018 年 1 月 24 日） | オタク街としての秋葉原の凋落 |
| 第 4 回（2018 年 2 月 22 日） | Greater Akiba の江戸時代以降の歴史（1） |
| 第 5 回（2018 年 3 月 13 日） | Greater Akiba の江戸時代以降の歴史（2） |
| 第 6 回（2018 年 4 月 19 日） | ここまでの議論の整理 |
| 第 7 回（2018 年 5 月 9 日） | シンポジウム開催計画 |

## ＜今後の活動予定＞

・ Greater Akiba をテーマにした東京文化資源区案内の発行（2018 年 7 月発行予定）

Greater Akiba（秋葉原、御茶ノ水、神保町）エリアを「知の交差路」として捉え紹介する街歩きガイドを発行します。

・ シンポジウムの開催（2018 年 8 月開催予定）

定例会議でのこれまでの議論をもとに、秋葉原を広域エリア（Greater Akiba）で捉え、今日に至る歴史の変遷を把握することを目的にシンポジウムを開催します。

資料⑤

# 東京オリンピック文化プログラム推進に関わる４者協議会規約

2016 年 5 月 9 日確定

（名称）

第１条　本協議会は、東京文化資源区文化プログラム推進協議会と称する。

（目的）

第２条　本協議会は、2020 年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの実施に合わせて、東京都千代田区、文京区及び台東区内に存在する豊富で多様な文化資源を、当該各区のみならず、当該各区の住民及び国内外からの来訪者に対して連携して活用することにより、各区域内における文化振興、地域活性化、教育普及、観光促進等を図るため、その具体的な施策について協議及び推進することを目的とする。

（協議会の構成）

第３条　本協議会は、前条の目的に賛同する次の各号の掲げる４者（以下単に「４者」という。）をもって構成する。

(1) 千代田区

(2) 文京区

(3) 台東区

(4) 東京文化資源会議

（運営方針）

第４条　本協議会の運営方針は、４者の協議によって決定する。

（事務所）

第５条　本協議会は、主たる事務所を東京都千代田区神田錦町二丁目１番地に置く。

（会議）

第６条　本協議会の会議は、４者の合意のもと、必要と認めた場合に開催する。

２　会議の議事は、４者の協議をもって決する。

（事業等に係る経費）

第７条　４者の協議に基づく文化プログラム個別プロジェクトの企画及び実施に係る経費の支出については、４者で別途協議する。

（規約の改定）

第８条　本協議規約の改定は、４者の合意をもって行う。

（事務局）

第９条　本協議会の事務局は東京文化資源会議内に置く。

（その他）

第 10 条　本協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

この規約は、平成 28 年 6 月 1 日より施行する。

資料⑥

# 活動中のプロジェクトチーム等　一覧

2018 年 5 月 13 日現在
*PM：プロジェクトマネージャーの略称

## ＜プロジェクトチーム＞

1. 3 区文化資源地図ファブ（小泉秀樹座長、真鍋陸太郎 PM）
2. プロジェクトスクール＠谷中（椎原晶子座長、片桐由希子 PM）
3. 地域文化資源デジタルアーカイブ（柳与志夫座長、宮本隆史 PM）
4. 湯島神田社寺会堂（宇野求座長、サム・ホールデン PM）
5. 本郷のキオクの未来（栗生はるか座長、三文字昌也・細見直史 PM）
6. スポーツ文化資源（鈴木直文座長、角谷幹夫 PM）
7. 上野スクエア構想（中島直人座長、小野道生・永野真義 PM）
8. リノベーションまちづくり制度研究会（田村誠邦座長、小泉秀樹副座長、椎原晶子・山本玲子 PM）
9. ナショナルハウス構想（太下義之座長、道明葵一郎 PM）
10. トーキョートラムタウン構想（中島伸座長、谷口晋平 PM）

## ＜委員会等＞

- 文化資源連携ビジョン策定委員会（伊藤滋委員長）
- 国際連携チーム（モンテベルデ座長）
- 神田まちづくり懇談会（小林正美座長）
- 広報委員会（柳与志夫委員長、野口雅乃副委員長）
- 出版委員会（沢部均委員長）

## ＜企画タスクフォース＞

- アキバプロジェクト企画チーム（庄司昌彦座長、菊地映輝幹事）
- 上野ナイトパーク構想検討会

## ＜個別の取組＞

- MANGA ナショナルセンター設置
- 旧岩崎邸整備

## ＜ 3 区との協議会＞

- 東京文化資源区文化プログラム推進協議会
- 三区文化資源地図協議会

## ＜関連協力団体＞

- 神保町未来会議
- 江戸・東京歴史文化ルネッサンスの会
- コマンド N
- NPO 歴史的建造物とまちづくりの会

# 2017 年度 東京文化資源会議 収支報告

## 東京文化資源会議収支報告（2018 年 3 月末時点）

**収入の部**

| 費目 | 内訳 | 予算 | 収入 | 差額 |
|---|---|---|---|---|
| 前年度繰越金 | | 5,916,582 | 5,916,582 | 0 |
| 会費 | 賛助会員会費 | 10,800,000 | 12,050,000 | 1,250,000 |
| | 正会員会費 | 390,000 | 225,000 | ▲165,000 |
| 利子 | | 0 | 65 | 65 |
| 懇親会費キャンセルにともなう返還分 | | 0 | 4,500 | 4,500 |
| 総計 | | 17,106,582 | **18,196,147** | 1,089,565 |

**支出の部**

| 費目 | 内訳 | 予算 | 支出 | 差額 |
|---|---|---|---|---|
| 事務局運営費 | 事務所賃料（光熱水道費を含む） | 712,800 | 713,232 | ▲432 |
| | 備品等購入費 | 100,000 | 9,050 | 90,950 |
| | スタッフ手当（事務局長、スタッフ、臨時アルバイト） | 3,000,000 | 2,607,764 | 392,236 |
| | 事務作業委託費 | 300,000 | 111,868 | 188,132 |
| | 交通費、電話料金、消耗品費等運営経費 | 500,000 | 317,666 | 182,334 |
| | 総会開催経費 | 200,000 | 171,843 | 28,157 |
| 全国文化資源連携ビジョン策定委員会運営費 | 運営委託費 | 1,500,000 | 540,432 | 959,568 |
| イベント開催経費（シンポジウム等10回程度を想定） | 講師謝金、運営経費、会場費等 | 1,000,000 | 1,713,016 | ▲713,016 |
| プロジェクトチーム等運営費 | プロジェクトチーム運営経費 | 3,200,000 | 3,186,252 | 13,748 |
| | 3区文化資源地図協議会負担金 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 連携事業支援金 | | 500,000 | 200,864 | 299,136 |
| 広報普及費 | 既存出版物増刷費 | 300,000 | 136,696 | 163,304 |
| | パンフレット・チラシ等編集・作成費 | 800,000 | 152,818 | 647,182 |
| | ニューズレター制作費 | 500,000 | 359,512 | 140,488 |
| | 広報デザイン費 | 500,000 | 0 | 500,000 |
| | ホームページ改修・運用費 | 500,000 | 90,083 | 409,917 |
| | SNS関連広報費（事務委託） | 500,000 | 806,760 | ▲306,760 |
| | 広報委員会運営経費 | 100,000 | 39,870 | 60,130 |
| その他諸経費(会計監査謝金等) | | 100,000 | 85,972 | 14,028 |
| 前年度未払い分 | | 2,000,000 | 1,691,775 | 308,225 |
| 予備費 | | 293,782 | 0 | 293,782 |
| 総計 | | 17,106,582 | **13,435,473** | 3,671,109 |

## 東京文化資源会議収支報告特別会計（2018 年 3 月末時点）

**収入の部**

| 費目 | 内訳 | 収入 |
|---|---|---|
| ガイドブック制作協賛金 | 2社（2018年度分） | 1,000,000 |

# 2017 年度 東京文化資源会議 会計監査報告

**東京文化資源会議　2017 年度会計監査報告**

2017 年度(2017 年 4 月→2018 年 3 月)の東京文化資源会議の事業執行及び財産の状況を帳簿その他の証拠資料の提示を受け監査した結果、いずれも適正に処理され妥当であることを認めます。

2018 年 5 月 21 日

東京文化資源会議
監事　北岡タマ子

# 東京文化資源会議　2018 年度事業計画（案）

## 1. 東京文化資源会議中期ビジョンの策定（全国文化資源連携ビジョン策定委員会）

## 2. 各プロジェクト（P）等の運営と関連イベントの開催

### ① 3 区文化資源地図ファブ P（座長：小泉秀樹東京大学教授）

発足 3 年目の今年度は、帝都物語カタログ作成と関連イベント開催、3 区地図アーカイブシステムの完成、2019 年度以降の運営体制の検討を行う。

### ② プロジェクトスクール@谷中 P（座長：椎原晶子 NPO たいとう歴史都市研究会理事長）

3 年間の活動の総括とフォーラムの開催。その後、谷中を事例として地域歴史文化を活かすまちづくりの制度設計、計画立案、事業化調査等に取り組むプロジェクトへの衣替えを行う。

### ③ 地域文化資源デジタルアーカイブ P（座長：柳与志夫東京大学特任教授）

第 1 期の谷根千デジタルアーカイブ構築の成果を踏まえ、地域デジタル文化資源活用センターの機能を果たすデジタルアーカイブ・ラボ設置を 3 区に提案する方向で検討。

### ④ 湯島神田社寺会堂 P（座長：宇野求東京理科大学教授）

第 1 期報告書に基づき、社寺会堂塾の発足、環境整備計画策定の基盤となる模型製作等に取り組む。それらの成果をもとに、秋以降の第 3 期の取り組みを行う。

### ⑤ 本郷のキオクの未来 P（座長：栗生はるか文京建築会ユース代表）

前年度に引き続き、本郷地域の建造物等文化資源を調査・記録し、保全・活用に向けた提案に結び付けることを目的に活動。

### ⑥ スポーツ文化資源 P（座長：鈴木直文一橋大学准教授）

2020 年オリンピック開催時を目途に、地域に根差した一般人のためのスポーツ文化資源の発掘・普及をめざし、活動 2 年目の今期は、フォーラムの開催と神田スポーツ祭りへの本格的参加を図る。

### ⑦ 上野スクエア構想 P（座長：中島直人東京大学准教授）

第二次構想を 6 月目途に公表、それに基づく一般向け及び関係者向けシンポジウム等を開催する。第 3 期となる秋以降は、構想に盛られた課題について、検討委員会内に WG 等を設置し、具体的な取組を始める。

### ⑧ リノベーションまちづくり制度研究会（座長：田村誠邦明治大学特任教授）

これまでの制度的対応策の検討をまとめ、制度整備・改正に関す政策提言を行う。

**⑨ ナショナルハウス構想 P（座長：太下義之三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング芸術・文化政策センター長）**

最初の対象国を選定し、その取り組みの中で中小国規模のナショナルハウス運営のモデルを構築・普及を図る。

**⑩ トーキョートラムタウン構想 P（座長：中島伸東京都市大学講師）**

構想の具体化と試行の可能性を探りながら、長期的取組の見通しをつける。現在 TTF に応募中。

**⑪ アキバプロジェクト企画（座長：庄司昌彦国際大学 GLOCOM 准教授）**

「グレイターアキバ」の概念を導入することにより、過去・現在・未来を貫くアキバの将来像を提示することを目的に歴史調査・レビューと取組のためのスキーム作りを行う。9 月にまとめのシンポジウムを行い、正式なプロジェクト昇格への足掛かりとする。

**⑫ 神田まちづくり懇談会（座長：小林正美明治大学副学長・教授）**

これまでの 4 回の論議を踏まえ、神田イメージの具体化を図るための TF を設置して検討を進める。年度内に全体デザインを公表する。

**⑬ 上野ナイトパーク構想（仮称）検討委員会の設置（新規）**

上野の杜全体の夜間の運営・活用の在り方を検討する委員会を新たに設置する。同時に作業部会を設けて、具体的な事業、運営方式、収支見込み等を検討する。今秋を目処に構想を発表する。

## 3. 東京文化資源区文化プログラム推進協議会の運営

## 4. 2020 年東京ビエンナーレ開催準備

## 5. 広報普及活動

（1）『T-Cha』の発行（年 4 回）
（2）ホームページの全面改修
（3）街歩きガイドブックシリーズの発行（全 5 冊）
（4）活動報告会の開催

## 6. 2020 年度以降の東京文化資源会議体制の検討

## 7. その他当会議の目標を達成するために必要な事業

# 東京文化資源会議　2018 年度収支計画（案）

## ○ 収入

**前年度繰越金**　476 万 674 円

**本会員会費**　3,000 円× 100（団体・個人）＝ 30 万円

**賛助会員会費**　（50 万円× 12 団体）＋（30 万円× 19 団体）＝ 1,170 万円

計、1,676 万 674 円

## ○ 支出

**事務局運営費**　481 万 2,800 円

事務所賃料（光熱水道費を含む）　5.5 万円× 12 か月× 1.08 ＝ 71 万 2,800 円

備品等購入費　5 万円

スタッフ手当（事務局長、次長、スタッフ、臨時アルバイト）300 万円

事務作業委託費　35 万円

交通費、電話料金、消耗品費等運営経費　50 万円

総会開催経費　20 万円

**全国文化資源連携ビジョン策定委員会運営費**　150 万円

運営委託費（委員等謝金、交通費、事務費、報告書作成費等）全 3 回開催

**イベント開催経費**（シンポジウム等 10 回程度を想定）　200 万円

講師謝金、運営経費、会場費等　200 万円

**プロジェクトチーム等運営費**　450 万円

プロジェクトチーム運営経費　30 万円× 10 チーム＋ 20 万円× 5 グループ＝ 400 万円

3 区文化資源地図協議会負担金　50 万円

**連携事業支援金**　50 万円

10 万円× 5 団体＝ 50 万円

**広報普及費**　294 万円

既存出版物増刷費　30 万円

ニューズレター制作費　50 万円

SNS 関連広報費（事務委託）　54 万円

活動報告会実施経費　50 万円

パンフレット・チラシ等編集・作成費　50 万円

ホームページ改修・運用費　50 万円

広報委員会運営経費　10 万円

その他諸経費 ( 会計監査謝金等 )　10 万円

**予備費**　40 万 7,874 円

計、1,676 万 674 円

---

# 東京文化資源会議　2018 年度特別会計（案）

**（特別会計設置の目的**：街歩きガイドブック 5 冊刊行のため）

**○ 収入**　50 万円× 20 社＝ 1000 万円（2017 年度繰越金 100 万円を含む）

**○ 支出**　200 万円× 3 か国版 5 種＝ 1000 万円

# 全国文化資源連携ビジョン策定委員会　委員名簿

2018 年 6 月 12 日現在 / 50 音順

・青山佾　（明治大学公共政策大学院教授）
・伊藤滋　（早稲田大学特命教授）　＜委員長＞
・久保田尚　（埼玉大学理工学研究科教授）
・隈研吾　（東京大学工学部教授）
・小泉秀樹　（東京大学大学院工学系研究科教授）
・小林正美　（明治大学理工学部教授・副学長）
・後藤治　（工学院大学理事長）
・佐藤友美子　（追手門学院大学地域創造学部教授）
・進士五十八　（福井県立大学学長）
・陣内秀信　（法政大学江戸東京研究センター所長）
・高野明彦　（国立情報学研究所教授）
・中村政人　（東京藝術大学美術学部教授・アーツ千代田 3331 ディレクター）
・西村幸夫　（東京大学名誉教授）
・廣瀬通孝　（東京大学大学院情報理工学系研究科教授）
・村上裕道　（兵庫県教育委員会事務局参事兼文化財課長）
・森まゆみ　（作家、谷根千工房代表）
・森川嘉一郎　（明治大学国際日本学部准教授）
・門内輝行　（大阪芸術大学建築学科長・教授、京都大学名誉教授）
・八木壯一　（㈱八木書店会長）
・吉見俊哉　（東京大学大学院情報学環教授）

計、20 名

# 東京文化資源会議　役員名簿

2018 年 5 月 13 日現在

会長　伊藤滋（早稲田大学特命教授・東京大学名誉教授）

幹事長　吉見俊哉（東京大学教授）

顧問
青木保（国立新美術館館長）
青柳正規（東京大学名誉教授）
相賀昌宏（小学館社長）
小倉純二（日本サッカー協会最高顧問）
金澤正剛（国際基督教大学名誉教授）
高階秀爾（大原美術館館長）
竹内誠（江戸東京博物館名誉館長）
長尾真（京都府公立大学法人理事長）
御厨貴（東京大学名誉教授）

幹事
太下義之（三菱ＵＦＪリサーチ＆コンサルティング）
宇野求（東京理科大学）
桶田大介（弁護士）
栗原祐司（京都国立博物館）
栗生はるか（文京建築会ユース）
小泉秀樹（東京大学）
小林正美（明治大学）：副幹事長
沢辺均（ポット出版）
椎原晶子（NPO たいとう歴史都市研究会）
鈴木直文（一橋大学）
関口太一（㈱都市計画設計研究所）
高野明彦（国立情報学研究所）
田村誠邦（㈱アークブレイン・明治大学）
中島伸（東京都市大学）
中島直人（東京大学）
中村政人（東京藝術大学）：幹事長代行
中村雄祐（東京大学）
野口雅乃（㈱イード）
濱口博行（東アジアサッカー連盟・広島経済大学）
舩橋和花（㈳コマンド N）
三舩康道（NPO 歴史的建造物とまちづくりの会）
山本玲子（特定非営利活動法人全国町並み保存連盟）
吉本光宏（ニッセイ基礎研究所）

監事　北岡タマ子（お茶の水女子大学）

事務局長　柳与志夫（東京大学）

# 東京文化資源会議　賛助会員（一般・特別）リスト

2018 年 5 月 13 日現在 / 50 音順

## ＜一般賛助会員＞

1. AGC
2. 朝日信用金庫
3. NTT 都市開発
4. KADOKAWA
5. グーグル
6. 講談社
7. JTB
8. 集英社
9. スターツ総合研究所
10. ゼンリン
11. 丹青社
12. 凸版印刷
13. 西鉄旅行
14. 日建設計
15. 乃村工藝社
16. 日立製作所
17. 松下産業
18. ムラヤマ
19. ヤマハミュージックジャパン
20. YKK AP

## ＜特別賛助会員＞

1. 新日鉄興和不動産
2. 住友商事
3. 大成建設
4. 大丸松坂屋百貨店
5. 竹中工務店
6. 電通
7. 東京ドーム
8. 野村不動産
9. 博報堂
10. 三井不動産
11. 三菱地所
12. 安田不動産

**東京文化資源会議 2018 年度総会資料**

発行日　2018 年 7 月 2 日
発行者　東京文化資源会議　（Editor: J.Hirose）
〒 101-0054　東京都千代田区神田錦 2-1
TEL：03-5244-5450　FAX:03-5244-5452　http://tohbun.jp/